

平成24年度第2回豊山町地域公共交通会議議事録（要旨）

1 開催日時 平成25年3月22日（金）午前10時～午前11時30分

2 開催場所 豊山町役場2階 会議室1

3 出席者

(1) 豊山町地域公共交通会議委員

豊山町長	鈴木 幸 育
あおい交通(株)代表取締役社長	松 浦 秀 則
名鉄バス(株)運輸部運輸計画課課長	加 藤 直 樹
名古屋市住宅都市局都市計画部交通企画課主査	池村尚哉 (代理)
名古屋タクシー協会専務理事	永 山 明 光
豊山町老人クラブ連合会元地区委員	伊 藤 千 歳
豊山町心身障害者福祉協会役員	河 村 君 枝
中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官企画担当	西 尾 和 晴
西枇杷島警察署交通規制係警部補	太 田 英 一
あおい交通(株)運行課長	工 藤 彰 郎
愛知県地域振興部交通対策課課長補佐	尾崎弘幸 (代理)
名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻准教授	加 藤 博 和
豊山町総務部長	近 藤 鎮 彦

(2) 欠席者

尾張建設事務所維持管理課長	林 由 紀 夫
公益社団法人愛知県バス協会事務局長	長 崎 三 千 男

(3) 事務局

豊山町理事	崎 下 雅 司
豊山町総務部総務課長	小 川 徹 也
豊山町総務部総務課長補佐	小 出 泰
豊山町総務部総務課企画財政・情報係長	高 橋 公 仁

4 議 題

報告事項

- (1) 本町の地域公共交通の現況について
- (2) とよやまタウンバス運行10周年を記念する事業について
- (3) 地域公共交通実態調査の結果について

協議事項

- (1) 地域公共交通総合連携計画の進捗状況と今後の取組（案）について

5 資料

- ①本町の地域公共交通の現況について (資料1)
- ②とよやまタウンバス運行10周年イベント報告 (資料2)
- ③平成24年度地域公共交通総合連携計画の進捗状況 (資料3)
- ④平成25年度地域公共交通総合連携計画の取組(案) (資料4)
- ⑤地域公共交通利用実態調査報告書
- ⑥公共交通マップ

6 あいさつ

- ・総務課長(司会)より開会のあいさつ
- ・町長(会長)よりあいさつ

【会長】 県営名古屋空港の隣接地に航空機の生産・整備拠点を誘致するプロジェクトが平成25年度から着手されることが発表され、本町に新しい時代が訪れようとしている。県営名古屋空港も好調である。フジドリームエアラインズはジェイエア就航時よりも路線数が少ないにも関わらず、搭乗率が高い。これから新しい路線、機材も増えると聞いている。引き続き、支援していきたい。

生産拠点が完成すると、非常に多くの方が豊山町に来ることになる。すでに現在においても、朝、渋滞が発生している場所もある。子どもたちの通学の時間とも重なっていて、交通事故が危惧される。三菱重工業はシャトルバスを運行させているようだが、まだまだ公共交通の利用が少ない。

本日はそのような背景をご理解いただいた上で、本町の公共交通についてご審議いただきたい。

7. 議事

- ・配布資料の確認
- ・会議を原則として公開することの確認
- ・議長は会長(町長)が行うことの確認

【会長】 2の報告事項の(1)本町の公共交通の現況について、事務局より説明を求める。

【事務局】 (資料1に基づき説明)

【会長】 ただいまの報告について、ご意見やご質問はないか。

【各委員】 (特になし)

【会長】 それでは、報告事項の(2)とよやまタウンバス運行10周年を記念する事業について、事務局より説明を求める。

【事務局】 (資料2に基づき説明)

【会長】 ただいまの報告について、ご意見やご質問はないか。

【各委員】 (特になし)

- 【 会 長 】 報告事項（3）の地域公共交通実態調査の結果について、事務局より報告を求める。
- 【 事 務 局 】 （資料に基づき説明）
- 【 会 長 】 ただいまの報告について、ご意見や質問はないか。
- 【 A 委 員 】 56ページにおいて、あおい交通の空港直行バスの選択肢に「マナカ」という表記がある。誤解を与える可能性があるので、正式に発表するときはその表現を削除したほうがよいと思う。
- 【 事 務 局 】 了解した。
- 【 B 委 員 】 事務局として、調査の結果を見て、ここは面白かったとか、これは意外だったというようなところはあるか。
- 【 事 務 局 】 バスの利用者は全体的に増えている一方で、バスのあり方について不満であるという人が増えている。この点について分析したい。たとえば、新しく本町に引っ越してきた人が、先ほど話題に出たマナカがとよやまタウンバスでは使えないことを不満に思っているというようなこともあるかもしれない。
- 【 C 委 員 】 バス利用者が増えている。どのような方々が新しい顧客であるのかを知りたい。また、冒頭の町長あいさつにあった、空港の跡地利用が公共交通にどのような影響を具体的に想定しているのかをお聞きしたい。
- 【 事 務 局 】 名古屋空港直行バスについては、空港利用者の増加に伴っていると理解している。その他については、確たる要因については分析できていないが、ルート上の町の人口が増加していることがあげられると思う。詳細については、実態調査の結果を今後、検討していきたい。
- 空港の跡地利用については、愛知県が7.8ヘクタールの用地を購入して、これを生産拠点に充てる予定である。新聞報道では三菱重工業のMR Jのためであるとされているが、現時点は候補のひとつに過ぎない。現時点ではどれくらいの数の人が拠点に来るかは判明していないが、空港の利用者の増加ともあわせて、どのように足を確保するかが問題となってくる。
- 【 B 委 員 】 まず、報告書全体についてだが、円グラフだと比較しにくいので、帯グラフにすべきである。
- 次に、満足、不満足については、路線によって特徴がある。運賃については、直行バスにおいて不満が大きく、本数についてはとよやまタウンバスについて不満が大きい。どの路線も一長一短があるということだ。今後、どのような方針で分析をする予定であるか。
- 【 事 務 局 】 たとえばタウンバスにおいても、利用目的や利用世代が異なっているので、単純に比較することは難しい。このデータだけではなく、それぞれのバスの特性に応じた分析をする必要があると思う。バス事業者の知恵をお借りしながら、作っていきたい。
- 【 B 委 員 】 どういう人を乗せたいのかという点を押えて分析する必要がある。

たとえば、今利用しているのだけれども、不満が多い方について、その不満の理由を分析することによって、もっと乗ってもらうためにはどうしたらよいかということ进行分析する。また、使う可能性のある方を抽出して、その不満の内容や、行先を分析して対応策を考える。そのような分析の流れを作る必要があるだろう。同じ路線の利用者でも、利用する時間帯によって回答の傾向が異なる可能性もある。利用目的別によっても、分析は可能だろう。加えて、思った以上に、上小田井に対する志向が強いようだが、町民の実感としてはどうだろうか。

【事務局】 上小田井の mozo はアメニティ施設が充実していて、根強い人気がある。

【B委員】 バスでエアポートウォーク名古屋に行く人は多い。とくに勝川・幸田線についてはエアポートウォーク名古屋の利用者が目立ち、この施設は本町の交通を考えるためには大事であることがよくわかる。その一方で、本町に住んでいる人は、バスで行かなくてもよいと考えている人が多いかもしれない。

もうひとつは、費用負担の問題である。現状よりも税金を投入してもよいという一般的な回答の傾向と同じ結果が出ていることも注目されるが、回答者がどれだけきちんと制度を理解した上で回答しているかは、いささか曖昧なところである。

【事務局】 また、デマンド交通について、36.7%の人が使うと回答している。たいへん多い数字だが、町としてはどのように考えているか。

【事務局】 利用すると答えた方の内訳を見ると、高齢者だけではなく、10代、20代の方が多いのが印象的である。一般的にこのような仕組みは高齢者や障がいをもった方を対象にしたサービスであると思われるが、実は若い方も利用者として設定できるのではないかと考えている。たとえば、以前、小さな子どもをもつ母親を対象にグループインタビューを行ったとき、ベビーカーや荷物の積み下ろしに手間や時間がかかるため、バスを利用したくても利用しにくいという意見がたいへん多かった。そのような方々が、このようなサービスを使って買い物などに行かれることもあると思う。福祉的使用にこだわらず考えると、広がりのあるサービスになるのではないか。

【B委員】 スリッパを履くように、気軽に利用する交通手段ということだと思う。本町は狭いが、徒歩や自転車のみで移動するのは、天候の問題もあり困難だ。町内をバスで移動する人が非常に少ないことを考えると、デマンド交通と、バスの並立も可能であるかもしれない。もうひとつ、町内でのタクシー移動はあまり多くないと推察される。

【事務局】 デマンド交通については、たとえば回答者の居住地の属性とか、自家用車に乗らない人を対象にした分析もやってみたい。

【B委員】 今回の調査の結果について、バス会社はどう受け取ったかをお聞きしたい。

- 【 D 委員 】 幸田・勝川線については本数が少ないという声がある。より充実させていきたいと考えているが、車両や経費の都合があり、名古屋空港のすべてのダイヤにあわせた運行をするのは難しい。
名古屋駅行きについては、料金が問題になっている。利用者からすると安いのにこしたことはないと思うが、高速道路を使用して運行することを考えると、タクシーを利用した場合と比較しても、決して高くはないと思う。現在のところ、変更する考えはない。
デマンド交通についてだが、町内のみをタクシーで移動するというのはあまりない。名古屋空港からのタクシー利用者も、本町外で降りる方がほとんどだと思われる。かといって、バスを乗り継いで移動するほどの面積もない。そう考えると、バスとタクシーの中間のような利便性の高いサービスができるかもしれない。
- 【 A 委員 】 西春・空港線については生活路線である。最近では西豊場の利用者が増えているようである。利用が増えると、いろいろなご要望が増えてきて、不満も多くなってくる。
ICカードやバスロケーションシステムの導入など、改善を行っている。30分に1本の運行について、ご不満な方もいらっしゃると思うが、現在の利用状況からすると、便数の増加は難しい。利用が増えるようだったら、朝夕の便を増強することも検討しなければならないことになる。デマンド交通については、タクシーが通常の移動に使われだすと、既存のバス路線に悪影響を与える可能性があるので、慎重に対応していただきたい。
- 【 会長 】 続いて、3協議事項（1）地域公共交通総合連携計画の進捗状況と今後の取組（案）について、事務局より説明を求める。
- 【 事務局 】 （資料3・4に基づき説明）
- 【 会長 】 狭隘な本町に、6,000人ほどの方が将来的に来られることになる。臨時バスが出されるのか、自家用車による通勤がどうなるかなど、まだはっきりしていない。このようなことも含めて、いろいろと詰めていかなければならないことがある。航空機産業は他県からも多くの綱引きがある。ぜひとも、本町としても推進していきたい。しかし、地元の方々が犠牲になってもいけない。町内の国道や県道も限られていて、その中で、安全な交通を確保しなければならない。地域公共交通会議の中で、皆様のご協力をいただきながら、方針を作っていきたい。
何かご質問やご意見はないか。
- 【 A 委員 】 工場立地については、まずはその勤務体系が明確にならないと、バスを配置することができない。たとえば、ブルーカラーの方が多いのか、それともホワイトカラーの方が多いのかでも人の動きは異なってくる。また、道路の走行環境の問題もある。道路管理者や公安も含めて、協議していただき、その結果を受けて、はじめてどのようにバスを走らせるかを検討するかということになる。

- 【 会 長 】 これから調査・研究する過程で、具体的なテーマが出てきたら、また皆様のご意見をうかがいたい。
- 【 C 委 員 】 公共交通マップについてお聞きしたい。普段からバスを利用されている方は、バスの路線や料金について詳しい。しかし、鉄道と違って、路線が目に見えないので、どこをどう走っているかなどがわかりにくい。豊山町の公共交通マップは、名鉄バスや名古屋空港直行バスについても記載されていて、とてもよいと思う。これは住民の方にも配るのか？ それとも新規に転入してきた人だけか？
- 【 事 務 局 】 公共交通マップそのものを住民全員に配ることはしないが、暮らしの便利帳という年度初めに全世帯に配る印刷物の中に、公共交通マップを取り入れている。
- 【 B 委 員 】 航空機の生産拠点の立地について、A委員がおっしゃったとおりであるが、その一方で、工場が立地する中で、なるべく自家用車による通勤は控えてほしいと言って行く必要がある。そうすると、バスの動線をどうするか、乗り合いでよいのか、専用バスでなくてはならないのかなども考えなくてはならない。いずれにせよ、規模が非常に大きい話なので、組織的にやっていかないとつぎはぎになる懸念があるので、町が情報収集をきちんとする必要がある。とくに信号などのハード系は早めに手当する必要がある。関係者が話し合う場所を作るべきだ。
- 公共交通マップを新規転入者に窓口で配布することは、新たな利用者を獲得するために非常に有効だ。配布する窓口の方が、ちょっと強調して渡していただけるとよい。
- 連携計画についてだが、来年度から連携計画に記載されている事業に対して、国の新しい補助制度が始まる予定である。本町の施策に合致するものも多そうである。内容をよく確認して、利用できるものは積極的に使うとよい。たとえば、地域の方に参加していただき、バスに関するワークショップを行うのもよい。実際に乗っている方について、専門的に議論していただき、それを活用するという方法もある。
- 【 E 委 員 】 運輸支局の立場からお話ししたい。この制度についてはまだ固まっていない部分がある。今後、4月末くらいに担当者に対して内容をお伝えしたいと思っている。
- 【 B 委 員 】 いずれにせよ、連携計画があることが補助金の条件である。本町の連携計画をよく活用するとよい。
- 【 C 委 員 】 デマンド交通についてだが、各地で新しい試みが始まっている。いろいろな視点から検討していただきたい。
- 【 会 長 】 協議事項（1）地域公共交通総合連携計画の進捗状況と今後の取組（案）について、お認めいただくということではよろしいか。
- 【 各 委 員 】 （異議なし）
- 【 会 長 】 以上をもって、提案した議題の審議を終わらせていただきたい。

- 【 司 会 】 協議事項のほかに、何かご意見などがあつたらお伺いしたい。
- 【 各 委 員 】 (なし)
- 【 司 会 】 事務局からは何かないか。
- 【 事 務 局 】 ありません。
- 【 司 会 】 以上で平成24年度第2回豊山町地域公共交通会議を終了する。